

## 危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章

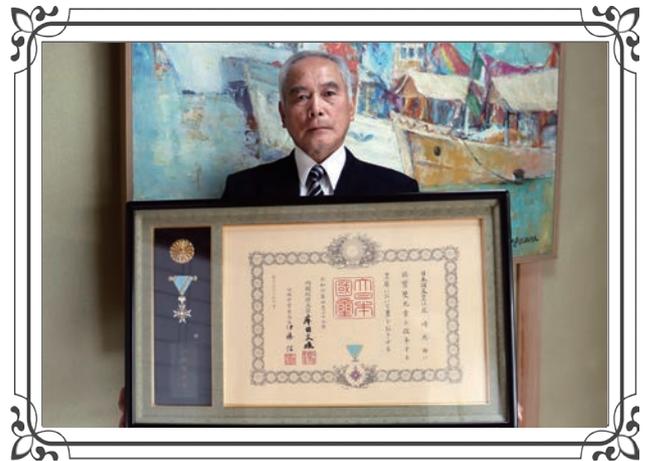
### 尾崎光由さん(警察功労)と若林弘武さん(消防功労)が受章

長年にわたり警察官や消防吏員、自衛官など危険性の高い業務に取り組んで社会貢献した功績をたたえる危険業務従事者叙勲が令和6年4月に発令され、町内からは尾崎光由さんと若林弘武さんが受章しました。

安全・安心な郷土を築くため警察官として尽力した尾崎光由さんは、40年にわたり愛媛県警察本部をはじめ県内各地で公安、警備の刑事として勤務しました。

受章に際し、5月上旬に愛媛県警察本部で勲記・勲章を受け取り、家族で東京に行き皇居で天皇陛下に拝謁したという思い出を笑顔で話す尾崎さんは、「この度の受章は身に余る光栄です。家族をはじめ、周囲の方々に支えていただいたおかげで職務を全うすることができた」と長年の警察人生を振り返りました。

現在は、妻の通子さんと柑橘栽培に励んでおり、「今回の受章に恥じぬよう地域貢献の精神を持ち続けるとともに、健康に気を付けて柑橘栽培にも力を入れていきたい」と笑顔で話しました。



尾崎 光由さん(警察功労)



若林 弘武さん(消防功労)

消防庁で執り行われた叙勲伝達式に妻の良美さんと出席後、皇居の豊明殿で天皇陛下に拝謁したという思い出をほほ笑みながら話す若林弘武さん。東京に住む娘さんご家族も駆け付け、受章を祝福しました。

高校を卒業して南宇和消防署(現:愛南消防署)に入署以降、43年間消防業務に奮闘。現役時代は松山市への出向や消防学校でクレーン等特殊車両操作などの専門知識を習得し技術向上に励みました。技術だけでなく人脈を広げられたことが自分の財産と話す若林さんは、「任務は責任が求められる仕事でしたが、ありがたい言葉がすごうれしかった」と口元を緩ませました。

現在は、自らそろえた農機具を用い、お姉さんや知人の農地で米作りに邁進しており、「担い手として米作りを続けていきたい」と温かい眼差しで話しました。

## 投稿写真



愛南町  
ホーム  
ページ

写真募集中!

よろしくお願  
い  
します。



投稿写真のコーナーでは読者(町民)の皆さまが撮影した写真を掲載しています。町の伝統芸能や催し、風景、特産品など愛南町の魅力を伝えられる写真(おおむね1ヵ月以内に撮影したもの)に説明文を添えて投稿してください。投稿方法など、詳しくは町ホームページをご確認ください。

4/  
30

## 大規模災害対策の拡充・強化を図るため 一般社団法人四国クリエイイト協会を水防協力団体に認定



▲左から、大洲河川国道事務所 江川昌克所長、藤山究副理事長、清水雅文町長

町では、消防団員の減少や高齢化が近年の問題となっている中、大規模災害対策への拡充・強化に向けて一般社団法人四国クリエイイト協会を水防協力団体として認定し、水防協力団体認定書交付式が行われました。

水防協力団体とは、水防団・消防機関が行う水防活動に協力する団体のことで、日頃より水防に関する普及啓発活動、災害時の巡視、土のう運搬等の後方支援などを行います。

同協会は、団員募集のPRや講習会の開催、訓練のサポート、災害時の資機材提供などの協力を活動内容としており、藤山究副理事長は「身の引き締まる思いです。県など関係団体からの支援や協力を賜りながら、情報共有しつつ愛南町と共に水防力強化に取り組んでいきたい」と述べました。

5/  
21

## 消防救助活動の技術向上を図るため日々鍛錬 第9回愛媛県消防救助技術大会出場をかねて署内選考会を実施



▲2人息を合わせロープ応用登はんを開始する隊員

6月5日(水)に松山市で開催された「第9回愛媛県消防救助技術大会」へ出場する隊員の署内選考会に、第1小隊・第2小隊から各5人の隊員が参加しました。

災害建物への進入等を想定し自己確保の命綱を結索し15メートルの垂直はしごを登る「はしご登はん」、登はん者と補助者が2人1組で協力し器材を使わずに塔上から垂下されたロープを15メートル登る「ロープ応用登はん」の、陸上の部2種目で選考会を行いました。

消防救助活動に必要とされる体力、精神力、技術力を培い、救助技術の向上を目指し、出場した隊員たちは安全確実性と短い所要時間を目指して声を掛け合い懸命に駆け登りました。

5/  
30

## いつ発生するか分からない災害に備えて 「災害時等における協力に関する協定」締結式



▲左から立花弘樹組合長、清水雅文町長

町と愛南漁業協同組合は、同組合が家串に所有する施設の使用に関して協定を締結しました。本協定の締結により、地震、津波、風水害等の災害が発生または発生する恐れがある場合や平常時において、円滑で迅速な応急対策業務および災害からの早期復旧を図るため、備蓄物資の保管や救援物資の一時的な集積、避難所などとして施設使用が可能となりました。

立花弘樹組合長は「今後とも防災に関わる意見交換を行い、災害時において地域住民の皆さまの安全・安心な暮らしに寄与していきたい」と心強い言葉を述べました。